

## ■ 我がまちの自慢

タケちゃん神輿(手作り神輿)は昭和55年(1980年)、地元の富澤武夫、文勝兄弟によって奉納されました。建具職人の熟練の技は他陸に自慢できるものです。毎年熊野神社祭礼の折、地元住民に披露され担ぎ手の熱気で一段と盛り上がります。



中心で折るとポケットサイズになります

## ■ 本の中の十二社

十二社が登場する小説をご紹介します。

- 『アースダイバー』 著者・中沢 新一
- 『時は過ぎゆく』 著者・田山 花袋
- 『放浪記』 著者・林 芙美子
- 『風化水脈 新宿鮫VIII』 著者・大沢 在昌
- 『鸚鵡楼の惨劇』 著者・真梨 幸子
- 『怪談牡丹燈籠 怪談乳房樓』 著者・三遊亭 円朝
- 『秘伝の声(上・下)』 著者・池波 正太郎



## 西新宿四丁目町会

■ メールアドレス  
juniso2023@gmail.com

■ instagram  
西新宿四丁目町会  
ID:nishishinjuku4chome



<編集・発行>  
西新宿四丁目町会 / 新宿区地域振興部 地域コミュニティ課

## 入会申込書

### 西新宿四丁目町会

町会長または特別出張所までお持ちください。

年 月 日

フリガナ	
氏名	
住所	
電話	
備考	

この個人情報を町会の名簿に登録し、会員相互の親睦や連絡のために使用することに同意します。



## 西新宿四丁目町会



## ■ まちの由来・歴史

「十二社は滝できこえたところである。十二社の滝—交通の便がまだ今日のように発達せず、箱根、伊香保、日光に行くのにも今日のように便利ではなかった昔にあっては、東京の下町の人たちは皆な涼をかうしたところに趁ったものである。」

『東京の近郊』(大正9年) 著者・田山 花袋

往時をしのぶこの一文、今の西新宿四丁目からは想像もつきません。

十二社の名の由来は、応永年間(1394年~)創建の十二社熊野神社によるものです。紀州熊野の本宮、新宮、那智の三社の神社を含め十二の神々を完請したことがその名の由来です。

## ■ 町会の活動

町会活動は色々ですが、月に一度の防犯パトロール、年末年始の「火の用心」、白眉はやっぱり、9月の十二社熊野神社の例大祭。

西新宿四丁目町会は、十二社宮元陸として、十三睦の一角を占めています。その他諸々、もちろん防災意識も高く、町会員同士の連携・協力も密であります。

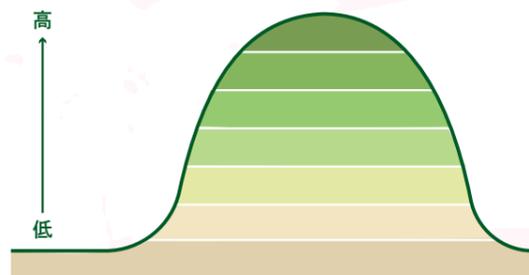
- 防犯パトロール
- 日帰り旅行
- 歳末火の用心
- わいわい広場
- 熊野神社例大祭
- 桜まつり
- 清掃活動
- 工学院大学との連携
- 防災訓練

# 区域図

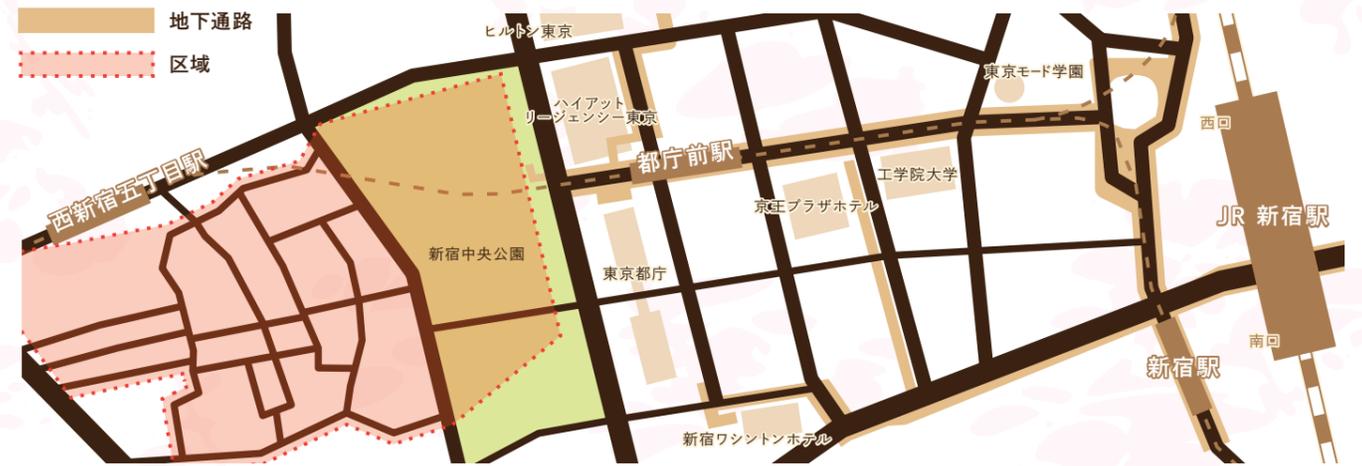


## 十二の坂

- 1 熊野坂(くまのざか)
- 2 池の段坂(いけのだんざか)
- 3 陸坂(むつみざか)
- 4 黒塀坂(くろべいざか)
- 5 三味線坂(しゃみせんざか)
- 6 庁望坂(ちょうぼうざか)
- 7 境坂(さかいざか)
- 8 六桜坂(ろくおうざか)
- 9 学者坂(がくしゃざか)
- 10 関東坂(かんとうざか)
- 11 胸突坂(むなつきざか)
- 12 三島坂(みしまざか)



## 新宿駅からのアクセス



## 十二社クロニクル

応永10年(1403年)	紀州出身の商人・鈴木九郎が中野長者と呼ばれる資産家になったため、故郷である熊野三山の十二所権現すべてを祀る。(伝説)
天文・永祿(1530~1569年)	渡辺与兵衛、十二社に熊野神社建立。
慶長11年(1606年)	伊丹播磨守が田畑の用水溜として大小2つの池を開発。(改修?)
寛文7年(1667年)	神田上水の水量を補うため玉川上水から神田上水に向け造られた神田上水助水堀が熊野神社東端の崖から落ちるところに滝が作られる。
元禄12年(1669年)	内藤新宿開設。
享保年間(1716~1735年)	この頃、熊野神社修復。吉宗將軍鷹狩に来訪。多数の茶屋ができ景勝地として賑わう。
文政3年(1820年)	春から十二社熊野神社御開張。蜀山人、熊野神社に手洗石奉納。祭礼の時に角乗・筏乗などの見世物ができる。
天保年間(1834~1836年)	『江戸名所図会』に「角管村熊野十二所権現社」が描かれる。
安政3~5年(1856年)	7月、歌川広重『名所江戸百景』で「角管熊野十二社俗称十二そう」を描く。
文久2年(1862年)	二代歌川広重が『江戸名所図会』で十二社の滝を描く。
明治元年(1868年)	5月14日、上野彰義隊の残党が熊野神社に立て籠る。
明治11年(1878年)	南豊島郡角管村となる。
明治18年(1885年)	新宿駅開設。
明治22年(1889年)	南豊島郡淀橋町発足。淀橋町大字角管となる。
明治26年(1893年)	浄水場建設で十二社の滝が消滅へ。
明治31年(1898年)	淀橋浄水場通水。
明治35年(1902年)	この地の良質で豊富な水を使い、小西六写真工業(サクラフィルム)の工場が操業(~昭和38年)。
明治38年(1905年)	日露戦争戦勝の影響を受けて茶屋は大きな料亭となり、西郊第一の遊興地となる。
明治44年(1911年)	十二社花街有名となる。この年の小字名に十二社が見られる。
大正14年(1924年)	一帯は二業地(料理屋、芸者置屋)、1927年には三業地(二業地+待合)として指定され、賑わった。
昭和2年(1927年)	現在の商業地域(12~18、29、30番地)が三業地の許可地に認定され、十二社産業組合が創立。
昭和7年(1932年)	淀橋区発足。(角管一~三丁目 十二社、淀橋)
昭和9年(1934年)	十二社通りが開通。
昭和20年(1945年)	5月25日の夜の空襲で十二社一帯が焼け野原になる。
昭和28年(1953年)	三業組合の会館として十二社会館を弁天池のほとりに建て、芸事の練習所とした。見番(現・パークサイド永谷マンション)も建設、町内の憩いの場として利用された。
昭和31年(1956年)	11月、十二社町会(現・西新宿四丁目町会)設立。
昭和32年(1957年)	十二社天然温泉会館完成。
昭和40年(1965年)	浄水場移転。
昭和43年(1968年)	7月、十二社池が全て埋め立てられる。(副都心計画)
昭和45年(1970年)	行政指導による住居表示変更により、十二社が町名から消える(現在の西新宿四丁目中心)。新宿一~六丁目発足。
平成3年(1991年)	都庁移転。
平成21年(2009年)	3月、十二社天然温泉会館が閉鎖。